



Pick Up News

■今号も大学院を特集です。在学大学院生の声とともに、本学の修学支援の制度を記載します。少しでも興味をもったら進学を強くお勧めします。自分自身の世界を狭めない、将来の可能性を高め拓げるための進学を検討してみてください。■長い夏休み期間も終わりに後学期がスタートします。現時点では予定通り、対面とオンラインとを組み合わせた授業運営となります。前学期での単位取得が計画通りに進んだ人もいれば、思い通りに行かなかった人もいます。思い通りに行かなかった人は、自身でその要因を探り、その対策を立てて臨むことが大切です。基本的には毎回の授業の出席、その授業内での集中した学修、そして予習と復習、あとは生活習慣・リズムをつくることに尽きます。半年後に振り返って自分の成長が実感できるように、目標を定めて、実りのある時間を過ごして下さい。

大学院特集です。1. 大学院を志した理由
大学院生の声を通 2. 大学院進学を決めた時期
して大学院の魅力 3. 大学院で学んでの感想
を感じとって下さい。 4. 学部生へのメッセージ

1. 将来、建築設計を仕事として考えた時に、学部で得た知識や技術では、足りないと感じたため。
2. 4年後期10月頃
3. 学部時よりも自分の研究について考える時間が多くて取れるため、有意義な時間を過ごせていると感じる。
4. もし、将来の目標が明確にあるので有れば、その目標を叶えるためとして大学院に進むのも一つの選択肢だと思う。(福屋研: 小山田陽大)

1. 学部4年間で学べないより実践的な学びをしたいと思ったから。
2. 学部3年の冬
3. 興味を持ったことを自ら調べ、授業で発表するような内容が多いため、自分の興味がどんなことなのかより深く知ることができる。
4. 大学院での学びは主体性が養われます。皆さんの興味をより深く知るためには大学院はとてもよい環境だと思います。(竹内研: 鈴木佑琴彩)

1. もう少し建築を勉強したいと思ったから。
2. 学部三年の夏。
3. すでに六分の一が過ぎたと思うと、蓄積が少ない。
4. 大学院でしか経験できないことがあるかどうかは分からないが、様々な「余裕」があるのなら進学すると良いことがある。例えば、楽しい、とか。(福屋研: 武田亮)

1. 3年時に就職活動を行う際、当時はまだやりたいと思える職が浮かばなかったため院への進学を視野に入れました。また、学部では触れられない建築の少し専門的な要素についても触れてみたいという気持ちもあったため、最終的には進学を選択しました。
2. 3年の秋頃だったと思います。就職活動が本格に始まる前には進学を選択していました。
3. 院は学部と比較して自発的に学ぶ姿勢を強く求められる環境であると感じました。学部時代では講義で教えられることを受け身で捉えるの方が多かったように記憶していますが、大学院では教えられることに対してどういった解釈をするのか、どこに着眼点を持つのかといった能動的な反応が求められる場所でした。学部で得た知識を踏まえ、改めて建築という学問について追及していくのが大学院という環境だと思います。
4. 院への進学も金銭面などの理由から簡単なものではありません。私個人としては、進学は候補に入っているなら有りだとは思いますが、絶対した方が良いとは思いません。人生の貴重な時間をどうするのか、ご自身やご家族としっかり相談した上で決められてはどうでしょうか。(中村研: 今野祐舞)

1. 大学院を志した理由は高校三年生の時に担任の先生から世界の未来発展方向は環境保全と省エネルギーであると助言していただき、大学の建築環境工学分野に進学しました。しかし、中国の大学の建築環境工学の内容は空調システムの設計のみでした。私は気候変化と建築の対応を研究したいので、東北工業大学大学院に留学しました。
2. 大学院進学を決めた時期私は心からとても嬉しいです。でも、落ち着いた後、自分自身を数回反省し、これからの大学院生活最もやりたいこと若しくは勉強したいことはなんだろう?この様な反省した後、目標は決めることができます。
3. 大学院で学んでの感想はやはり物事に対する考え方とやり方です。どんな危機でも焦ることはできません。いつも積極的な態度を持つほうがいいと思います。
4. 悔しくないようにこの二年間頑張ろう!(渡辺研: 金哲鑫)

1. 学部でできなかったプレゼンや、資格の勉強に時間をあてたかったから。
2. 大学4年4月
3. テストのための勉強から自分の興味の掘り下げに変わったと感じた。
4. 就職してもいいし、大学院についてみるのも、どちらも大変ではありますが、楽しいと思います。(許研: 竹内友佐)

1. 専門的な能力を高め、専門知識を充実させるため。
2. 学部3年生の後期
3. 各講義と一緒に授業を受ける人数は多くないので、先生との交流や自分の発表する機会が多くなり、たくさん勉強になりました。
4. 大学院での生活は忙しいですが、自分の知識や能力を高めるには最適な時期だと思います。もっと自分の能力を高めたいと思っている人は、大学院に進学を考えてください。(許研: 劉雨萌)

Pick Up Lab.

環境設備系の許研究室は、現在4年生10名、院生2名の体制で、BIM技術の応用と環境づくりとを研究しています。高橋尚大君、高橋壮一君、丹野源君は先輩らの研究を引き継ぎ、3Dプリンターでへちま涼風器を作りました。真夏(気温31℃)の屋外において、なんと26.5℃の涼風が作られました(写真1)。高橋朱利君、高橋翔吾君はBIMソフトを利用し熱源機器の配管設計を行い、配管抵抗の自動計算を研究しています(写真2)。来月には、新3年生との顔合わせを楽しみにしております。



涼風器実測



BIM研究

4年 木村 華さん
秋田北高校 出身

Pick Up Student

普通科高校出身で建築の知識が一切無く、4年間やっていけるかととても不安でした。特に設計課題では自分の作品に自信を持てないことが多々あり、担当の先生や友人、先輩に何回もエスキスしてもらったり、参考事例を調べて知識の幅を広げていきました。本学には意匠から構造まで幅広い分野の教授がいらっしゃるのでわからないことがあればすぐに解決できます。また、課外活動として毎年、設計事務所のオープンデスクに行っていました。大学では経験できない実務を学ぶ場としてだけではなく、大学で身につけた模型や、パソコンスキルが実践で活かれます。建築関係の仕事をしたと考えている方には将来のためにもおすすめです。様々な分野に興味を持ち、自分のやりたいことを見つけてください。

1年 谷口 智哉くん
青森 三沢高校 出身

Pick Up Student

私は4月青森から飛び出し、仙台で一人暮らしを始めました。慣れない家事と学業の両立には最初は戸惑いましたが、徐々に慣れてきました。学習面では普通科高校出身ということもあり、初めて学ぶ建築の勉強にとってもワクワクしました。設計の授業では製図を初めて描きました。線でも様々な種類の線があるため、線1本描くことも難しく感じましたが、先生や友達のアドバイスのおかげでしっかりと取り組むことができました。また、授業以外にも建築に関する講演会などもあり、建築のことを学べる機会が多くあるので今後も積極的に参加しようと思います。私はこの4年間で様々な知識やスキルを身につけて有意義な大学生活にしていきたいと思っています。

大学院特集です。
大学院生の声を通して
大学院の魅力を感じ
て下さい。

1. 大学院を志した理由
2. 大学院進学を決めた時期
3. 大学院で学んでの感想
4. 学部生へのメッセージ

1. 自分の強みとなるような、専門性を獲得するため大学院を志しました。
 2. 2年生の終わりに頃に大学院に進学したいとぼんやりと思うようになり、3年生の後期に進学することを決めました。
 3. 授業も研究も大変なことは多いですが、新しい学びが多くとても有意義な生活に感じます。グループワークなどでお互いの研究内容を交えながら行う議論が特に楽しく思います。
 4. 建築が好きだったり、自分にしかない専門知識が欲しかったりする人は大学院への進学をオススメします。（大石研：鈴木尋斗）
-
1. 先生からの勧めと、学部の勉強では足りないと感じたからです。
 2. 3年生の前期
 3. 人数が少ないため、他の研究室の学生や先生と話す機会が増えました。
 4. 進路に迷っている方は大学院進学は1つの選択肢だと思います。（渡辺研：高森秀真）

- 就職に対するモチベーションがうまく維持できなかったことと、卒業研究の内容について引き続き取り組みたいと考えたからです。
 - 学部4年の秋ごろです。私は他の院生に比べて遅い時期だと思うのですが、研究室の先生と相談して進学を決めました。
 - 講義を受ける人数が少ない分、先生方との距離が近く、コミュニケーションがとりやすいです。また、常に他の院生に刺激を受けて、研究に前向きになれています。
 - 私はもともと院進に対して後ろ向きなイメージがあったのですが、実際に進学してみたら、自分の視野や考え方を広げることができていて、いい選択だったと思っています。今、就職しか考えていない人も、ひとつの選択肢として進学について考えてみることは無駄ではないと思います！（中村研：穴戸千香）

1. 1. 社会に出る前に、自分の弱い部分を克服したいと思ったことが1番の理由です。より学びを深めたい、様々なスキルを身につける時間が必要だと考えました。同じ研究室に所属していた大学院生の先輩方への憧れもありました。	1. もともと進学したい気持ちがありましたが、就職内定もなかった後で、学部時代の勉強不足に気づき、大学院に行くことにしました。
2. 学部3年の秋～冬頃から考え始めて、4年になる頃には進学を決意しました。	2. 入学した時か卒業しよう時か？（笑）
3. 授業中はもちろん、それ以外の時間でも自分の持つ問題意識などについて議論する機会が増えたと感じています。加えて、大学院ならではの深い授業内容や研究室活動を通して、学部時代の自分より視野が広がった気がします。	3. 学修において何かをプラスするというよりも、マイナスを克服する力と判断が重要だと感じています。
4. 私は、進学を考えるまで、卒業後は就職するものだとばかり考えていました。これを読んでいる方の中にも、そういう人もいるかと思います。しかし、そこに大学院進学という選択肢を加えてみてください。そのプロセスが私にとっては、改めて自分を見つめ直し、この先の未来を考えるきっかけになりました。	4. この世の中で変わらないのは変わり続けるということだけだという言葉聞いたことがあります。常に自分の好奇心と真心で積極的に新しいことにチャレンジしませんか？
(不破研：轟木ひな)	(渡辺研：陳阿青)

本学学部を卒業後、本学の大学院に進学する学生に対し、以下の充実した経済的支援制度を設けています。

また、日本学生支援機構第一種奨学金の返還免除制度について、第一種奨学金受給者で、大学院において特に優れた業績を挙げたと認められる者を対象に、学内選考を経て、日本学生支援機構へ推薦いたします。返還免除者として決定した学生は、奨学金の全額または半額免除を受けることができ、**経済的負担をさらに軽くすることが可能です。**

本学学部を卒業後、引き続き大学院に進学する学生は、
入学検定料(通常33,000円)が免除されます。

本学の学部を卒業し大学院へ入学する学生は、入学
金および設備負担金(合計510,000円)が免除されます。

	本学卒業者	本学外からの入学者
入 学 金	—	250,000
授 業 料	800,000	800,000
設 備 負 担 金	—	260,000
学 生 諸 費 分 担 金	20,000	20,000
合 計	820,000	1,330,000

本学各学科から春季学内推薦入試による進学を希望する学生を対象に、大学が定めるGPA基準値を満たす学生のうち1名を認定します。

本学各学科から春季学内推薦入試による進学を希望する学生を対象として、学部在学中に申請し、審査の結果採用候補者となった学生に、大学院進学後の奨学金を事前に約束する予約型の奨学金です。大学院在学中、年額200,000円を給付します。(学業成績による継続判定有り)

指導教員の研究補助を行う場合、年間最大264,000円(時給1,100円)を支給します。

指導教員の下、学部学生の実験・実習等の教育補助を行う場合、年間最大264,000円(時給1,100円)を支給します。

上記1～6を組み合わせると、**国公立大学の大学院以下の学費**で進学することも可能です。